ごし給つるを、月比ものを露まいらざりければ、中堂に參らせ給て、二七日こもりて、たゞいきしにをつげさせ給へと申させ給ければ、なに事ともなく、たゞしにまうけをせよと、夢に見給ければ、無動寺におはしまして、權僧正山の座主に、かう〳〵の夢をなんみつる、されば、いまはかふなりとのたまはすれば、僧正などてか夢はさみゆれば、いのちながしとこそ申せと申給ければ、いのちながからんをうれしゝながらへんをうれしと、思はゞこそあらめ、たゞほとけのつげさせ給つるうれしき也、〇略下

〔台記〕康治元年五月十五日丁未、依召參御前、事々如昨日、御語之次申云、行成卿夢、屋崩不經幾程薨、仰羽〇鳥云、此夢尤可恐夢也、故白川院御時、朕夢、御所東口崩、又故少僧都觀重夢、法勝寺九重塔崩、自其跡松樹生者、松樹存吉事由之處、不經幾程崩給者、　三年〇天養元年三月廿二日癸酉、始如意輪供、覺仁依去夜或人夢惡也、

〔平治物語三〕清盛出家事幷瀧詣附惡源太成雷電事

同〇仁安二年七月七日、攝津國布引ノ瀧見ントテ、入道ヲ始テ、平氏ノ人々被下ケルニ、難波三郎計夢見惡キ事有トテ供セザリシカバ、傍輩共弓矢取身ノ、何條夢見物忌ナド云、サルオメタル事ヤ有ト笑ケレバ、經房モ實モト思テ走下、夢覺テ參タル由申セバ、中々興ニテ、諸人瀧ヲ詠テ感ヲ催ス折節、天俄ニ曇リ、夥シク、バタヽガミ鳴テ、人々興ヲサマス處ニ、難波三郎申ケルハ、我恐怖スル事是也、先年惡源太最後ノ詞ニ、終ニハ雷ト成テ、蹴殺サンズルゾトテ、ニラミシ眼常ニ見ヘテ、六箇敷ニ、彼人イカヅチニ成タリト夢ニ見シゾトヨ、只今手鞠計ノ物ノ、巽ノ方ヨリ飛ツルハ、面々ハ見給ハヌカ、其コソ義平ノ靈魂ヨ、一定歸ザマニ經房ニ懸ラント覺ルゾ、左有トモ太刀ハ拔テン物ヲト云モハテネバ、霹靂夥シクシテ、經房ガ上ニ黑雲掩トゾ見ヘシ、微塵ニ成テ死ニケリ、

〔運歩色葉集禮〕靈夢